

I. 調 査 結 果

1. 人口

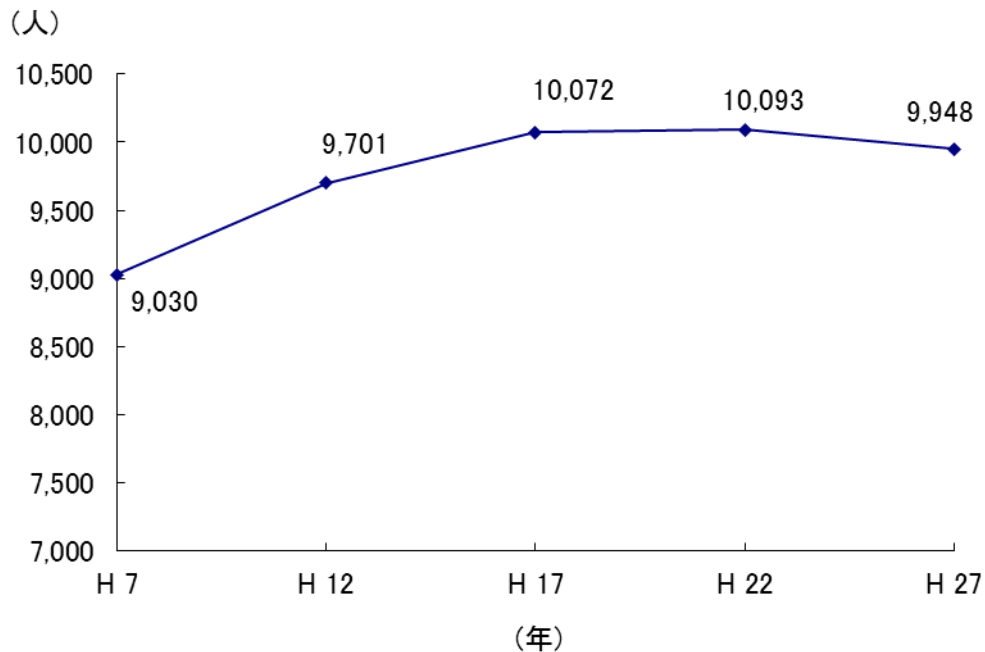
C0101-1 人口総数及び増加数

平成 27 年の松川村の人口は 9,948 人で、いずれも都市計画区域内に居住している。村の人口は国勢調査開始以降、順調に増加していたが、平成 22 年から平成 27 年まで 5 年間の増加率は-1.4%で、初めての減少となった。(図表 1-1) のとおり 20 年間で 918 人、率にして約 10%増加している。

図表 1-1 人口総数及び増加数

年次	行 政 区 域			都 市 計 画 区 域		
	人口 (人)	5 年間の増減		人口 (人)	5 年間の増減	
		人口 (人)	率 (%)		人口 (人)	率 (%)
H 7	9,030	—	—	9,030	—	—
H12	9,701	671	7.4	9,701	671	7.4
H17	10,072	371	3.8	10,072	371	3.8
H22	10,093	21	0.2	10,093	21	0.2
H27	9,948	▲145	▲1.4	9,948	▲145	▲1.4

(国勢調査より)



図表 1-2 人口の推移

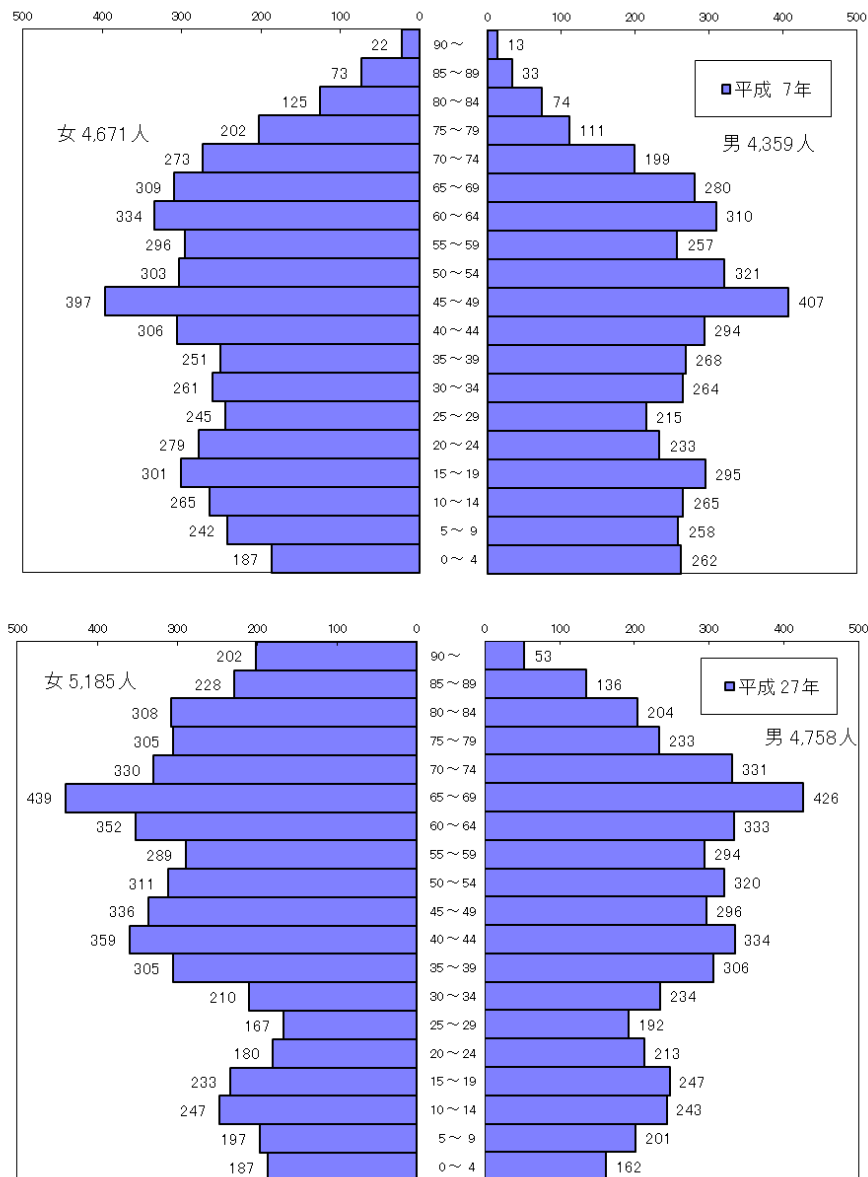
C0101-2 年齢・性別人口

平成 27 年の総人口は 9,948 人で、平成 7 年の 9,030 人から 20 年間で 918 人（10.2%）増加している。年齢構成別に平成 7 年と比較してみると、人口は増加しているにも係わらず年少人口（0～14 歳）の比率は 16.4%から 12.5%に減少し、出生率の低下による少子化の進展が顕著である。65 歳以上の人口比率は 19.0%から 32.1%に増加、特に 75 歳以上の高齢者の比率は 7.2%から 16.8%へと増加率が高く、少子高齢化が顕著である。年少人口及び生産年齢人口（15～64 歳）の減少により将来の労働力不足が懸念される。

図表 1-3 年齢・性別人口

年 齢 階 層	平 成 7 年			平 成 12 年			平 成 17 年			平 成 22 年			平 成 27 年			備 考
	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	
0 ～ 4	449	262	187	478	239	239	462	233	229	369	175	194	349	162	187	年 少 人 口
5 ～ 9	500	258	242	538	316	222	537	269	268	493	244	249	398	201	197	
10 ～ 14	530	265	265	533	278	255	542	311	231	535	265	270	490	243	247	
15 ～ 19	596	295	301	483	243	240	466	241	225	488	269	219	480	247	233	生 産 年 齢 人 口
20 ～ 24	512	233	279	507	251	256	373	187	186	340	180	160	393	213	180	
25 ～ 29	460	215	245	602	289	313	580	292	288	450	222	228	359	192	167	
30 ～ 34	525	264	261	559	268	291	681	333	348	612	304	308	444	234	210	
35 ～ 39	519	268	251	594	307	287	597	281	316	681	330	351	611	306	305	
40 ～ 44	600	294	306	588	296	292	628	321	307	625	297	328	693	334	359	
45 ～ 49	804	407	397	638	316	322	597	312	285	638	329	309	632	296	336	
50 ～ 54	624	321	303	849	423	426	656	320	336	595	307	288	631	320	311	
55 ～ 59	553	257	296	654	342	312	863	418	445	683	333	350	583	294	289	
60 ～ 64	644	310	334	557	250	307	667	342	325	870	420	450	685	333	352	
65 ～ 69	589	280	309	641	301	340	578	265	313	672	342	330	865	426	439	老 年 人 口
70 ～ 74	472	199	273	576	268	308	623	272	351	559	252	307	661	331	330	
75 ～ 79	313	111	202	437	177	260	536	238	298	576	239	337	538	233	305	
80 ～ 84	199	74	125	253	80	173	362	129	233	457	185	272	512	204	308	
85 ～ 89	106	33	73	137	51	86	214	64	150	299	101	198	364	136	228	
90 ～	35	13	22	77	16	61	110	31	79	151	34	117	255	53	202	
年齢不詳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	4	1	
総 計	9,030	4,359	4,671	9,701	4,711	4,990	10,072	4,859	5,213	10,093	4,828	5,265	9,948	4,762	5,186	

図表 1-4 年代別人口構成比



※平成 27 年の年齢不詳を除く

図表 1-5 年齢別人口推移

区 分	平成 7 年		平成 12 年		平成 17 年		平成 22 年		平成 27 年	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
年少人口 (0～14 歳)	1,479	16.4	1,549	16.0	1,541	15.3	1,397	13.8	1,237	12.5
生産年齢人口 (15～64 歳)	5,837	64.6	6,031	62.2	6,108	60.6	5,982	59.3	5,511	55.4
老年人口 (65 歳～)	1,714	19.0	2,121	21.8	2,423	24.1	2,714	26.9	3,195	32.1
総 計	9,030	100.0	9,701	100.0	10,072	100.0	10,093	100.0	9,943	100.0
人口の増減	-	-	671	7.4	371	3.7	21	0.2	▲145	▲1.4

※平成 27 年の年齢不詳を除く

(国勢調査より)

C0103 将来人口

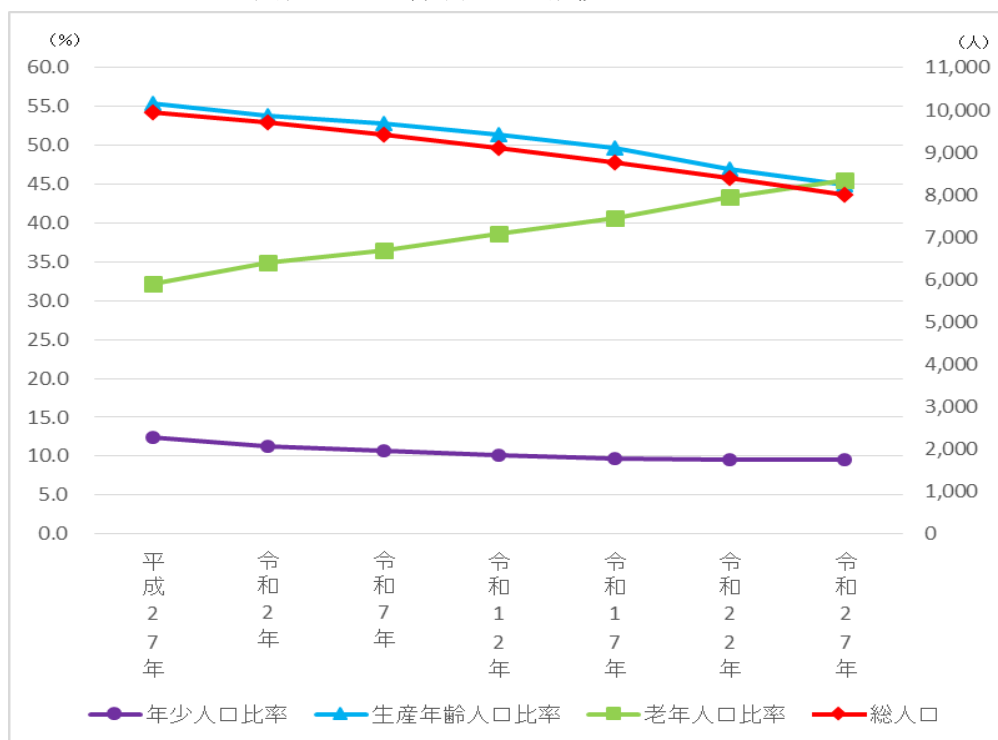
将来人口の推計では、総人口で平成 27 年の 9,943 人から徐々に減少し、令和 27 年までの 30 年間で、8,006 人（-19.5%）にまで減少すると予想される。年齢構成を見てみると、老年人口（65 歳以上）の比率は、平成 27 年の 32.1%から 45.5%に増加し、年少人口（0～14 歳）は平成 27 年から令和 27 年の 30 年間の推計では 12.5%から 9.6%に減少する。生産年齢人口（15～64 歳）も年少人口と同様に減少傾向にあり、労働力不足が懸念される。

図表 1－6 将来人口

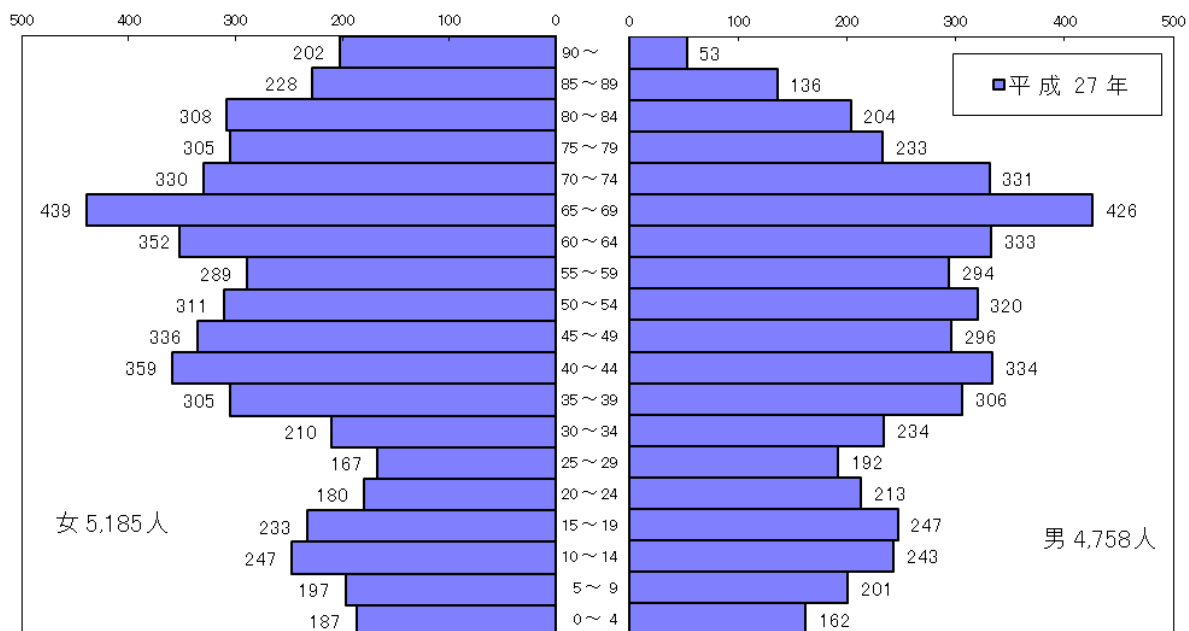
		平成 27 年			令和 2 年			令和 7 年			令和 12 年			令和 17 年			令和 22 年			令和 27 年		
		総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女
総数		9,943	4,758	5,185	9,720	4,678	5,042	9,416	4,543	4,873	9,104	4,403	4,701	8,773	4,248	4,525	8,401	4,070	4,331	8,006	3,884	4,122
年 齢 階 級 別	0 ～ 4	349	162	187	325	167	158	284	146	138	262	134	128	255	131	124	244	125	119	226	116	110
	5 ～ 9	398	201	197	375	185	190	349	188	161	308	167	141	286	155	131	278	151	127	267	145	122
	10 ～ 14	490	243	247	395	200	195	373	185	188	347	187	160	306	166	140	284	154	130	277	151	126
	15 ～ 19	480	247	233	437	224	213	352	184	168	332	170	162	310	172	138	274	153	121	254	142	112
	20 ～ 24	393	213	180	390	198	192	356	180	176	288	148	140	270	136	134	252	138	114	222	122	100
	25 ～ 29	359	192	167	396	217	179	398	209	189	368	193	175	313	164	149	293	151	142	277	153	124
	30 ～ 34	444	234	210	390	204	186	425	223	202	433	220	213	402	203	199	347	178	169	325	164	161
	35 ～ 39	611	306	305	443	235	208	389	205	184	426	225	201	437	223	214	406	207	199	351	181	170
	40 ～ 44	693	334	359	618	307	311	449	237	212	396	207	189	433	226	207	445	225	220	414	209	205
	45 ～ 49	632	296	336	701	333	368	624	304	320	454	236	218	399	206	193	436	224	212	450	224	226
	50 ～ 54	631	320	311	627	288	339	695	324	371	618	296	322	449	230	219	396	201	195	434	219	215
	55 ～ 59	583	294	289	644	332	312	640	300	340	710	337	373	632	308	324	460	239	221	406	209	197
	60 ～ 64	685	333	352	584	294	290	646	332	314	647	303	344	717	340	377	639	311	328	464	241	223
	65 ～ 69	865	426	439	688	337	351	589	299	290	654	339	315	658	313	345	730	351	379	650	321	329
	70 ～ 74	661	331	330	850	413	437	675	325	350	580	290	290	645	329	316	653	306	347	724	343	381
	75 ～ 79	538	233	305	632	304	328	815	381	434	650	301	349	561	270	291	624	307	317	638	289	349
	80 ～ 84	512	204	308	470	190	280	553	250	303	722	318	404	577	252	325	501	228	273	560	261	299
	85 ～ 89	364	136	228	417	161	256	387	152	235	461	203	258	611	263	348	488	208	280	429	191	238
	90 ～	255	53	202	338	89	249	417	119	298	448	129	319	512	161	351	651	213	438	638	203	435

※平成 27 年の数値は年齢不詳を除いた実績値。

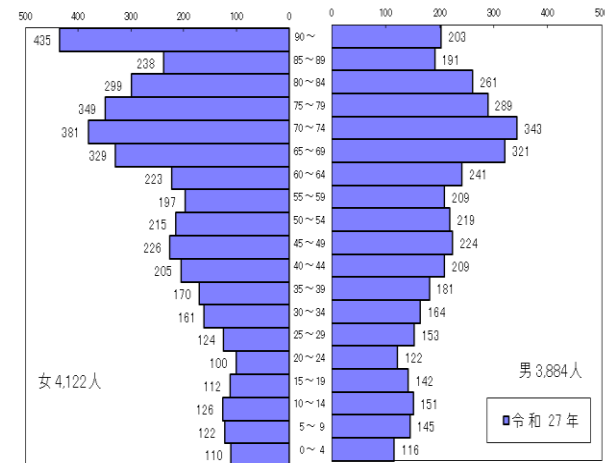
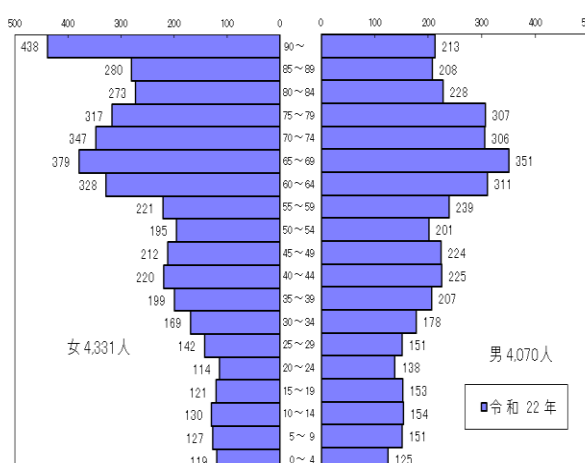
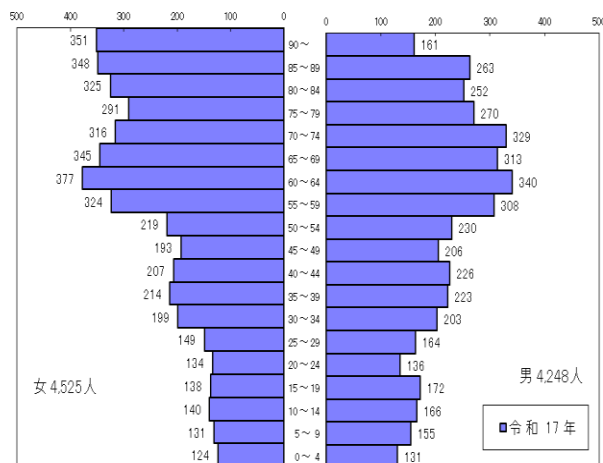
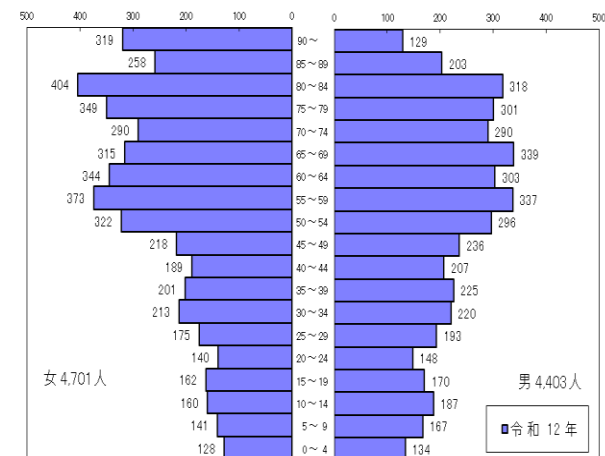
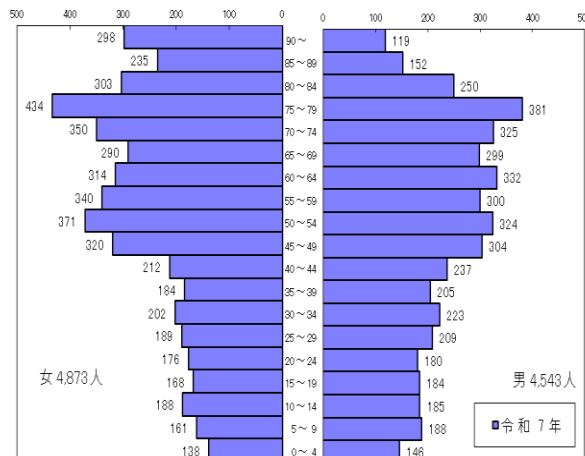
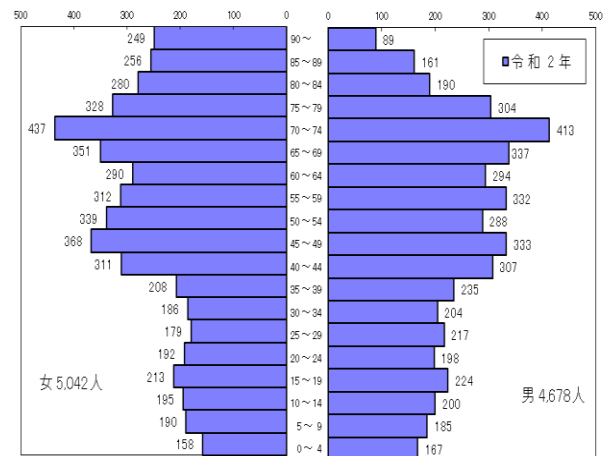
図表 1-7 将来人口の推移



図表 1-8 年代別人口構成比表（実績値：平成 27 年）



図表 1－9 将来人口年代別人口構成比表



図表 1－10 人口の将来見通し

行政 区域		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年 (基準年次)	令和2年 (5年後)	令和7年 (10年後)	令和12年 (15年後)	令和17年 (20年後)	令和22年 (25年後)	令和27年 (30年後)	備 考
	実 績 値	9,030人	9,701人	10,072人	10,093人	9,948人							
	上位計画 (第6次総合計画)						10,700人						目標年次 平成31年度 10,700人
	推計値(等差級数式)						10,177 人	10,407 人	10,636 人	10,866 人	11,095 人	11,325 人	
	推計値(一次方程式)						10,428 人	10,648 人	10,868 人	11,088 人	11,308 人	11,528 人	
	推計値(就業人口より)						9,782 人	9,676 人	9,570 人	9,464 人	9,358 人	9,252 人	
	推計値(コーホート法)						9,720 人	9,416 人	9,140 人	8,773 人	8,041 人	8,006 人	
都 市 計 画 区 域		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年 (基準年次)	令和2年 (5年後)	令和7年 (10年後)	令和12年 (15年後)	令和17年 (20年後)	令和22年 (25年後)	令和27年 (30年後)	備 考
	実 績 値	9,030人	9,701人	10,072人	10,093人	9,948人							
	上位計画 (第6次総合計画)						10,700人						目標年次 平成31年度 10,700人
	推計値(等差級数式)						10,177 人	10,407 人	10,636 人	10,866 人	11,095 人	11,325 人	
	推計値(一次方程式)						10,428 人	10,648 人	10,868 人	11,088 人	11,308 人	11,528 人	
	推計値(就業人口より)						9,782 人	9,676 人	9,570 人	9,464 人	9,358 人	9,252 人	
	推計値(コーホート法)						9,720 人	9,416 人	9,140 人	8,773 人	8,041 人	8,006 人	

人口の推計

令和 27 年を目標年次に行政区域内人口を推計する。

推計は次の方法で行なうこととする。

- ① 延長法による推計
- ② 就業人口による推計

① 延長法による人口予測

(イ) 等差級数式 (H7～H27 人口を基礎)

計算式 $P = P_0 + n r$

P: 将来人口
P0: 基準年次の人口 (H27、9,948 人)
n: 基準年次
r: 平均的人口増加数

計算 H7= 9,030 人、H27 = 9,948 人

$$9,948 - 9,030 = 918$$

$$918 \div 20 = 45.9 (= r)$$

$$9,948 + \{ 5 \times (+45.9) \} = 10,177 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 2 年}$$

$$9,948 + \{ 10 \times (+45.9) \} = 10,407 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 7 年}$$

$$9,948 + \{ 15 \times (+45.9) \} = 10,636 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 12 年}$$

$$9,948 + \{ 20 \times (+45.9) \} = 10,866 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 17 年}$$

$$9,948 + \{ 25 \times (+45.9) \} = 11,095 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 22 年}$$

$$9,948 + \{ 30 \times (+45.9) \} = 11,325 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 27 年}$$

(㍒)等比級数式 (H7～H27 人口を基礎)

$$\text{計算式 } P = P0(1+r)^n \quad \left[\begin{array}{l} P: \text{将来人口} \\ P0: \text{基準年次の人口 (H27、9,948 人)} \\ n: \text{基準年次} \\ r: \text{平均的人口増加数} \end{array} \right]$$

計算 $9,948 = 9,030 \times (1+r)^{20}$ とすると、

$$(1+r)^{20} = 9,948 \div 9,030$$

$$= 1.10166$$

$$\log 1.10166 = 20 \log(1+r)$$

$$1+r = 1.00485$$

$$r = 0.00485$$

これより、

$$9,948 \times (1+0.00485)^5 = 10,191 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 2 年}$$

$$9,948 \times (1+0.00485)^{10} = 10,441 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 7 年}$$

$$9,948 \times (1+0.00485)^{15} = 10,696 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 12 年}$$

$$9,948 \times (1+0.00485)^{20} = 10,958 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 17 年}$$

$$9,948 \times (1+0.00485)^{25} = 11,227 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 22 年}$$

$$9,948 \times (1+0.00485)^{30} = 11,501 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 27 年}$$

(ハ)一次方程式（最小二乗法）(H7～H27 人口を基礎)

計算式 $y = a x + b$

$y =$ 将来人口

$x =$ 基準年次からの経過年数

$a = \Sigma xy \div \Sigma x^2$

$b = \Sigma y \div n$ (n :年数)

計算

年次	n	X	y	x^2	Xy
H 7	0	-10	9,030	100	-90,300
H12	5	-5	9,701	25	-48,505
H17	10	0	10,072	0	0
H22	15	5	10,093	25	50,465
H27	20	10	9,948	100	99,480
Σ	5		48,844	250	11,140

表より、 $a = 11,140 \div 250$

$= 44$

$b = 48,844 \div 5$

$= 9,768$

(44×15) + 9,768 = 10,428 人 …… 令和 2 年

(44×20) + 9,768 = 10,648 人 …… 令和 7 年

(44×25) + 9,768 = 10,868 人 …… 令和 12 年

(44×30) + 9,768 = 11,088 人 …… 令和 17 年

(44×35) + 9,768 = 11,308 人 …… 令和 22 年

(44×40) + 9,768 = 11,528 人 …… 令和 27 年

(二) 二次方程式(最小二乗法)(H7～H27 人口を基礎)

計算式 $y = a x^2 + b x + c$

$$\left\{ \begin{array}{l} y = \text{将来人口} \\ x = \text{基準年次からの経過年数} \\ a = \{ n \sum x^2 y - \sum y \sum x^2 \} \div \{ n \sum x^4 - (\sum x^2)^2 \} \\ b = \sum xy \div \sum x^2 \\ c = \{ \sum y \sum x^4 - \sum x^2 \sum x^2 y \} \div \{ n \sum x^4 - (\sum x^2)^2 \} \\ (n: \text{年数}) \end{array} \right.$$

計算

年次	n	X	y	x ²	XY	x ⁴	x ² y
H 7	0	-10	9,030	100	-90,300	10,000	903,000
H12	5	-5	9,701	25	-48,505	625	242,525
H17	10	0	10,072	0	0	0	0
H22	15	5	10,093	25	50,465	625	252,325
H27	20	10	9,948	100	99,480	10,000	994,800
Σ	5		48,844	250	11,140	21,250	2,392,650

表より、

$$\begin{aligned} a &= \{ (5 \times 2,392,650) - (48,844 \times 250) \} \\ &\div \{ (5 \times 21,250) - (250)^2 \} \\ &= 0.21875 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} b &= 11,140 \div 250 \\ &= 44.56 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} c &= \{ (48,844 \times 21,250) - (250 \times 2,392,650) \} \\ &\div \{ (5 \times 21,250) - (250)^2 \} \\ &= 10,051 \end{aligned}$$

$(0.21875 \times 15^2) + (44.56 \times 15) + 10,051 = 10,744$ 人 …… 令和 2 年
 $(0.21875 \times 20^2) + (44.56 \times 20) + 10,051 = 10,996$ 人 …… 令和 7 年
 $(0.21875 \times 25^2) + (44.56 \times 25) + 10,051 = 11,219$ 人 …… 令和 12 年
 $(0.21875 \times 30^2) + (44.56 \times 30) + 10,051 = 11,442$ 人 …… 令和 17 年
 $(0.21875 \times 35^2) + (44.56 \times 35) + 10,051 = 11,665$ 人 …… 令和 22 年
 $(0.21875 \times 40^2) + (44.56 \times 40) + 10,051 = 11,888$ 人 …… 令和 27 年

②就業人口予測による人口予測

(ホ)就業人口予測（一次式最小二乗法）(H17～H27 就業人口を基礎)

計算式 $y = a x + b$

$$\left\{ \begin{array}{l} y = \text{将来人口} \\ x = \text{基準年次からの経過年数} \\ a = \Sigma xy \div \Sigma x^2 \\ b = \Sigma y \div n \quad (n: \text{年数}) \end{array} \right.$$

計算

年次	n	X	y	x ²	xy
H17	0	-5	5,299	25	-26,495
H22	5	0	5,074	0	0
H27	10	5	5,186	25	25,936
Σ	3		15,559	50	-565

表より、 $a = -11$ 、 $b = 5,186$

予測される就業人口は、

$$\begin{aligned} (-11 \times 10) + 5,186 &= 5,076 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 2 年} \\ (-11 \times 15) + 5,186 &= 5,021 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 7 年} \\ (-11 \times 20) + 5,186 &= 4,966 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 12 年} \\ (-11 \times 25) + 5,186 &= 4,911 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 17 年} \\ (-11 \times 30) + 5,186 &= 4,856 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 22 年} \\ (-11 \times 35) + 5,186 &= 4,801 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 27 年} \end{aligned}$$

平成 27 年度の松川村の就業率をみると、

$$\text{H17} \cdots (5,299 \div 10,072) \times 100 = 52.61\%$$

$$\text{H27} \cdots (5,186 \div 9,948) \times 100 = 52.13\%$$

となっていて、10 年間で 0.48%減少している。

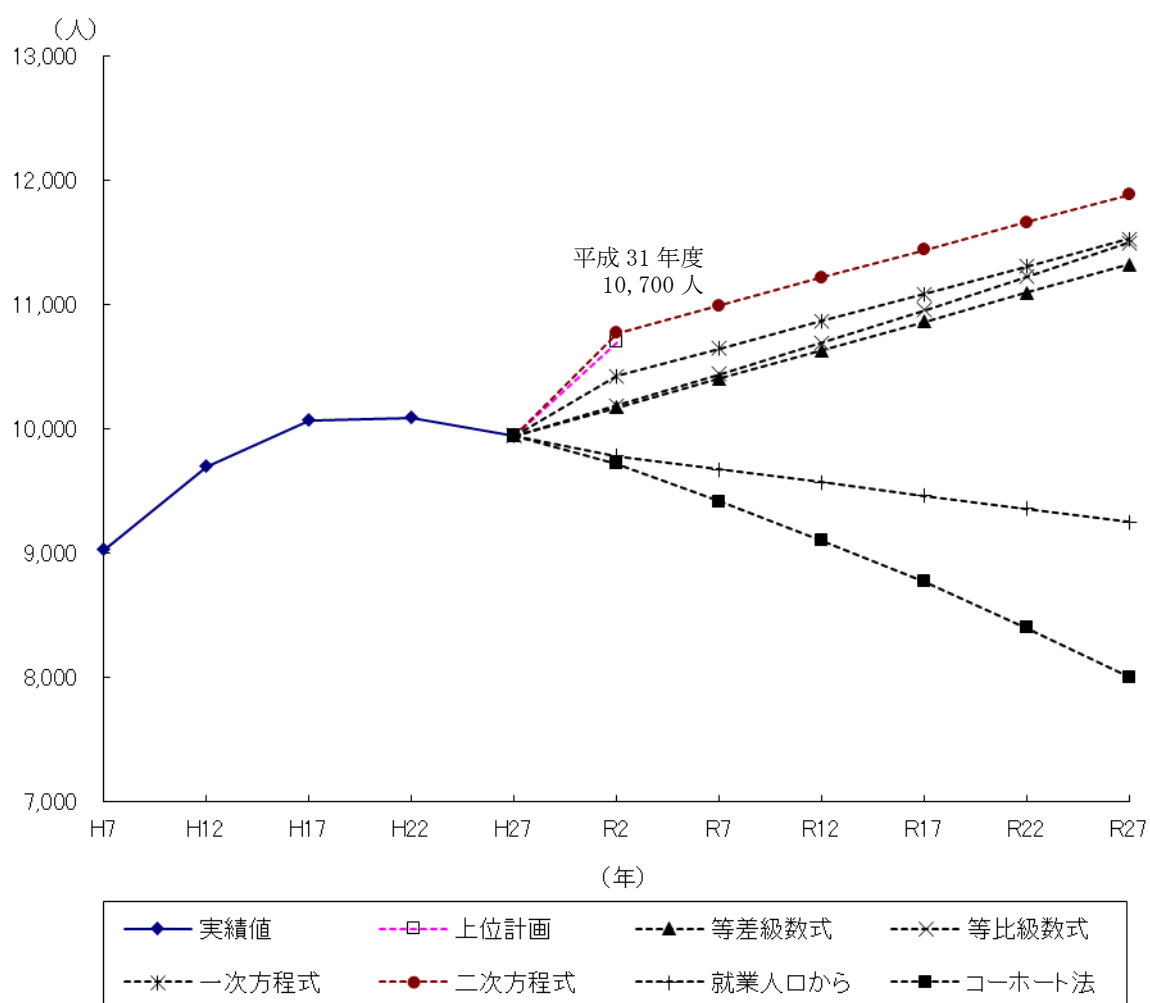
その中間の 0.24%を H27 の就業率から減算し、将来の就業率を 51.89%と仮定し、将来人口を予測する。

$$\begin{aligned} 5,076 \div 0.5189 &= 9,782 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 2 年} \\ 5,021 \div 0.5189 &= 9,676 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 7 年} \\ 4,966 \div 0.5189 &= 9,570 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 12 年} \\ 4,911 \div 0.5189 &= 9,464 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 17 年} \\ 4,856 \div 0.5189 &= 9,358 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 22 年} \\ 4,801 \div 0.5189 &= 9,252 \text{ 人} \cdots \cdots \text{令和 27 年} \end{aligned}$$

以上の結果を次の表にまとめる。

推計方法	R2	R7	R12	R17	R22	R27
① (イ) 等差級数式	10,177	10,407	10,636	10,866	11,095	11,325
① (ロ) 等比級数式	10,191	10,441	10,696	10,958	11,227	11,501
① (ハ) 一次方程式	10,428	10,648	10,868	11,088	11,308	11,528
① (ニ) 二次方程式	10,774	10,996	11,219	11,442	11,665	11,888
② (ホ) 就業人口から	9,782	9,676	9,570	9,464	9,358	9,252
コーホート法	9,720	9,416	9,104	8,773	8,401	8,006

人口推計図



C0104 人口増減

人口増減の内訳をみると、自然動態は平成 7 年以降は増減を繰り返しており、平成 17 年以降は減少傾向にある。

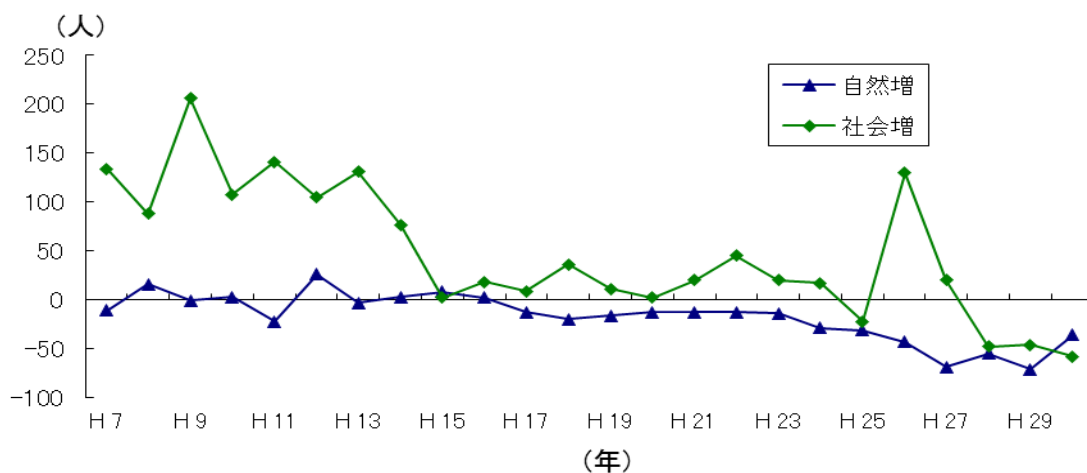
一方、社会動態では平成 7 年から平成 14 年の間は、毎年転入者が転出者を大きく上回っており、松川村の総人口の安定した順調な増加をもたらしていたが、平成 15 年以降、社会増が急激に少なくなり、平成 28 年以降は転出数が転入数を上回り、減少傾向となっている。

そのような中、平成 13 年まで続いていた年間 100 人以上の人口増加は、平成 14 年以降変化し、増減を繰り返していたが、平成 24 年以降は平成 26 年を除き減少が続いている。

図表 1-11 人口増減の内訳

項目 年度	自 然 動 態			社 会 動 態			人口 増減	項目 年度	自 然 動 態			社 会 動 態			人口 増減
	出生数	死亡数	自然増	転入数	転出数	社会増			出生数	死亡数	自然増	転入数	転出数	社会増	
H 7	70	81	▲11	454	320	134	123	H19	73	89	▲16	388	377	11	▲ 5
H 8	90	74	16	439	351	88	104	H20	85	98	▲13	345	343	2	▲11
H 9	82	83	▲ 1	514	308	206	205	H21	66	79	▲13	317	297	20	7
H10	81	78	3	471	363	108	111	H22	67	80	▲13	348	303	45	32
H11	77	99	▲22	519	378	141	119	H23	79	93	▲14	318	298	20	6
H12	104	78	26	562	457	105	131	H24	71	100	▲29	304	287	17	▲12
H13	83	86	▲ 3	554	423	131	128	H25	72	103	▲31	282	304	▲22	▲53
H14	95	92	3	515	438	77	80	H26	58	101	▲43	417	287	130	87
H15	91	83	8	468	466	2	10	H27	49	118	▲69	308	288	20	▲49
H16	90	88	2	424	406	18	20	H28	60	115	▲55	313	361	▲48	▲103
H17	68	81	▲13	374	365	9	▲ 4	H29	54	125	▲71	289	335	▲46	▲117
H18	79	99	▲20	442	406	36	16	H30	66	103	▲36	295	353	▲58	▲94

(住民基本台帳より)



図表 1-12 人口増減の内訳

C0105 通勤・通学移動

就業者の流出入別人口では、常住地による就業者は平成 17 年から 2.1%減少し 5,186 人、従業地による就業者は 3,325 人で 1.5%減少している。

流出就業者数は平成 22 年までは増加傾向にあったが、平成 27 年には 1.3%減少している。流入就業者数は平成 17 年までは増加傾向にあったが、平成 22 年は減少し、平成 27 年には増加している。

流出先としては安曇野市が最も多く 1,042 人(20.1%)、次いで大町市の 905 人(17.5%)、松本市の 601 人(11.6%)の順である。流入先も安曇野市が最も多く 472 人(14.2%)、次いで大町市の 405 人(12.2%)、池田町 249 人(7.4%)の順になっている。

通学者の流出入別人口では、常住地による通学者は 455 人、従業地による通学者は 86 人となっている。

流出先としては松本市が最も多く 133 人(29.2%)次いで大町市の 69 人(15.2%)安曇野市の 67 人(14.7%)の順になっている。流入先は安曇野市が 2 人(2.3%)、次いで大町市と松本市がそれぞれ 1 人(1.2%)である。

図表 1－13 流出・流入別人口（就業者）

	常住地による 就 業 者 数	流 出		従業地による 就 業 者 数	流 入		従 / 常 就 業 者 比 率
		就 業 者 数	流 出 率		就 業 者 数	流 入 率	
平 成 7 年	人 5,143	人 2,694	% 52.4	人 3,315	人 866	% 26.1	% 64.5
平 成 12 年	5,272	2,969	56.3	3,400	1,097	32.3	64.5
平 成 17 年	5,299	3,076	58.0	3,376	1,153	34.2	63.7
平 成 22 年	5,074	3,212	63.3	2,986	1,108	37.1	58.8
平 成 27 年	5,186	3,170	61.1	3,325	1,306	39.3	64.1

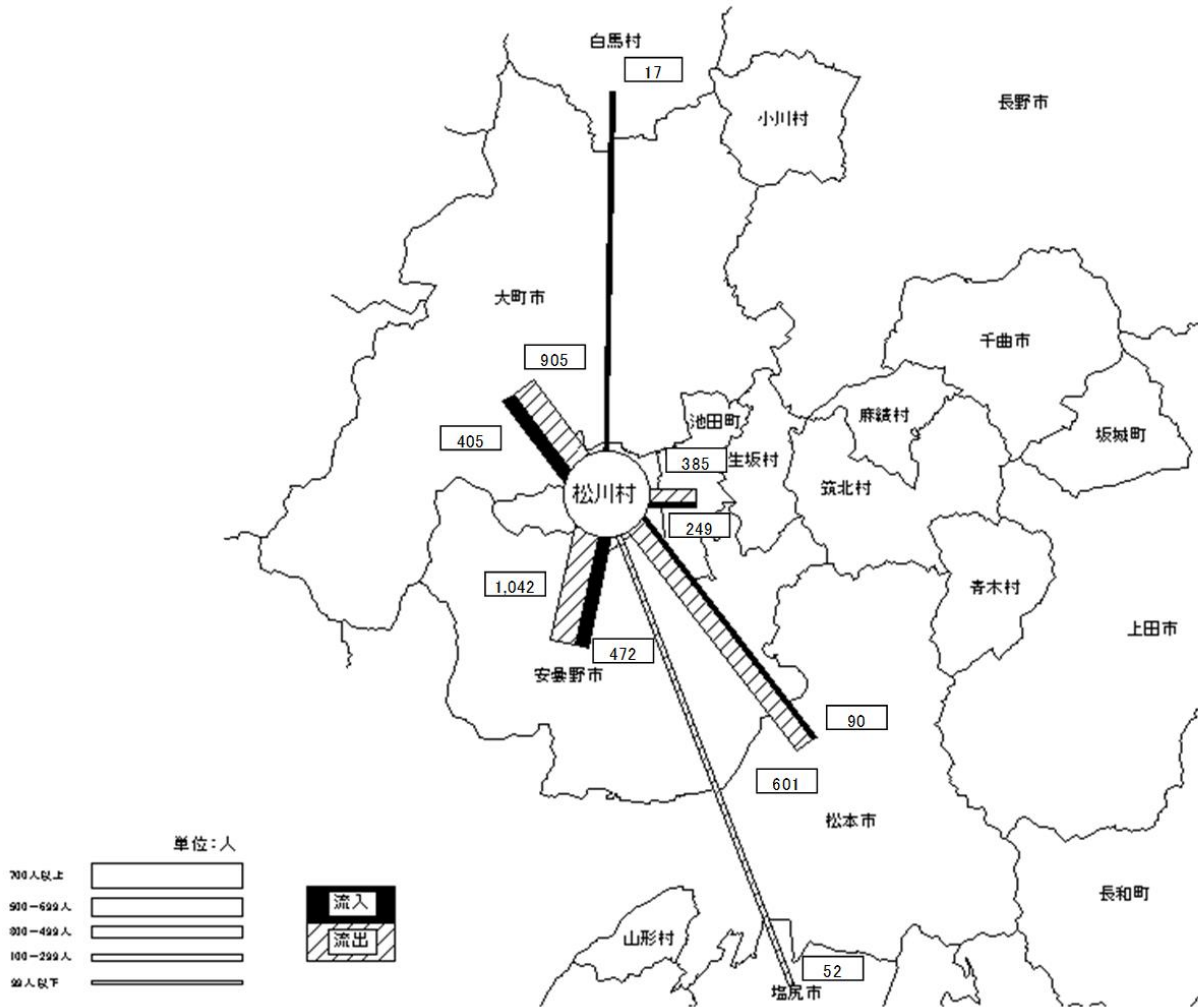
	流 出 先														
	流 出 率 第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位		
	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率
平成 7 年	大町市	人 717	% 13.6	松本市	人 579	% 11.0	穂高町	人 467	% 8.9	池田町	人 371	% 7.0	豊科町	人 272	% 5.2
平成 12 年	大町市	742	14.0	松本市	562	10.6	穂高町	543	10.2	池田町	402	7.6	豊科町	310	5.9
平成 17 年	安曇野市	1,067	21.0	大町市	771	15.2	松本市	593	11.7	池田町	380	7.5	塩尻市	62	1.2
平成 22 年	安曇野市	1,072	20.7	大町市	894	17.2	松本市	624	12.0	池田町	394	7.6	塩尻市	68	1.3
平成 27 年	安曇野市	1,042	20.1	大町市	905	17.5	松本市	601	11.6	池田町	385	7.4	塩尻市	52	1.0

	流 入 先														
	流 入 率 第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位		
	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率
平成 7 年	大町市	人 286	% 8.4	池田町	人 226	% 6.6	穂高町	人 151	% 4.4	松本市	人 41	% 1.2	豊科町	人 38	% 1.1
平成 12 年	大町市	317	9.4	池田町	252	7.5	穂高町	209	6.2	松本市	66	2.0	豊科町	57	1.7
平成 17 年	大町市	381	12.8	安曇野市	357	12.0	池田町	236	7.9	松本市	96	3.2	白馬村	27	0.9
平成 22 年	安曇野市	377	11.3	大町市	359	10.8	池田町	217	6.5	松本市	100	3.0	白馬村	17	0.5
平成 27 年	安曇野市	472	14.2	大町市	405	12.2	池田町	249	7.5	松本市	90	2.7	白馬村	17	0.5

- 注1. 常住地による就業者数とは、当該都市に常住する（夜間人口ベース）就業者数を言う。
 従業地による就業者数とは、当該都市に従業する（昼間人口ベース）就業者数を言う。
2. 流出率 = 流出就業者数 ÷ 常住地による就業者数 × 100
 流入率 = 流入就業者数 ÷ 従業地による就業者数 × 100
3. (従 / 常) 就業者比率 = 従業地による就業者数 ÷ 常住地による就業者数 × 100

(国勢調査より)

就業者



図表 1-14 流出・流入状況図 (平成 27 年)

図表 1－15 流出・流入別人口（通学者）

	常住地による 通 学 者 数	流 出		従業地による 通 学 者 数	流 入		従 / 常 通 学 者 比 率
		通 学 者 数	流出率		通 学 者 数	流入率	
	人	人	%	人	人	%	%
平 成 7 年	493	402	81.5	92	1	1.1	18.7
平 成 12 年	411	346	84.2	67	1	1.5	16.3
平 成 17 年	440	371	84.3	71	2	2.8	16.1
平 成 22 年	475	425	89.5	58	5	8.6	12.2
平 成 27 年	455	374	82.2	86	4	4.7	18.9

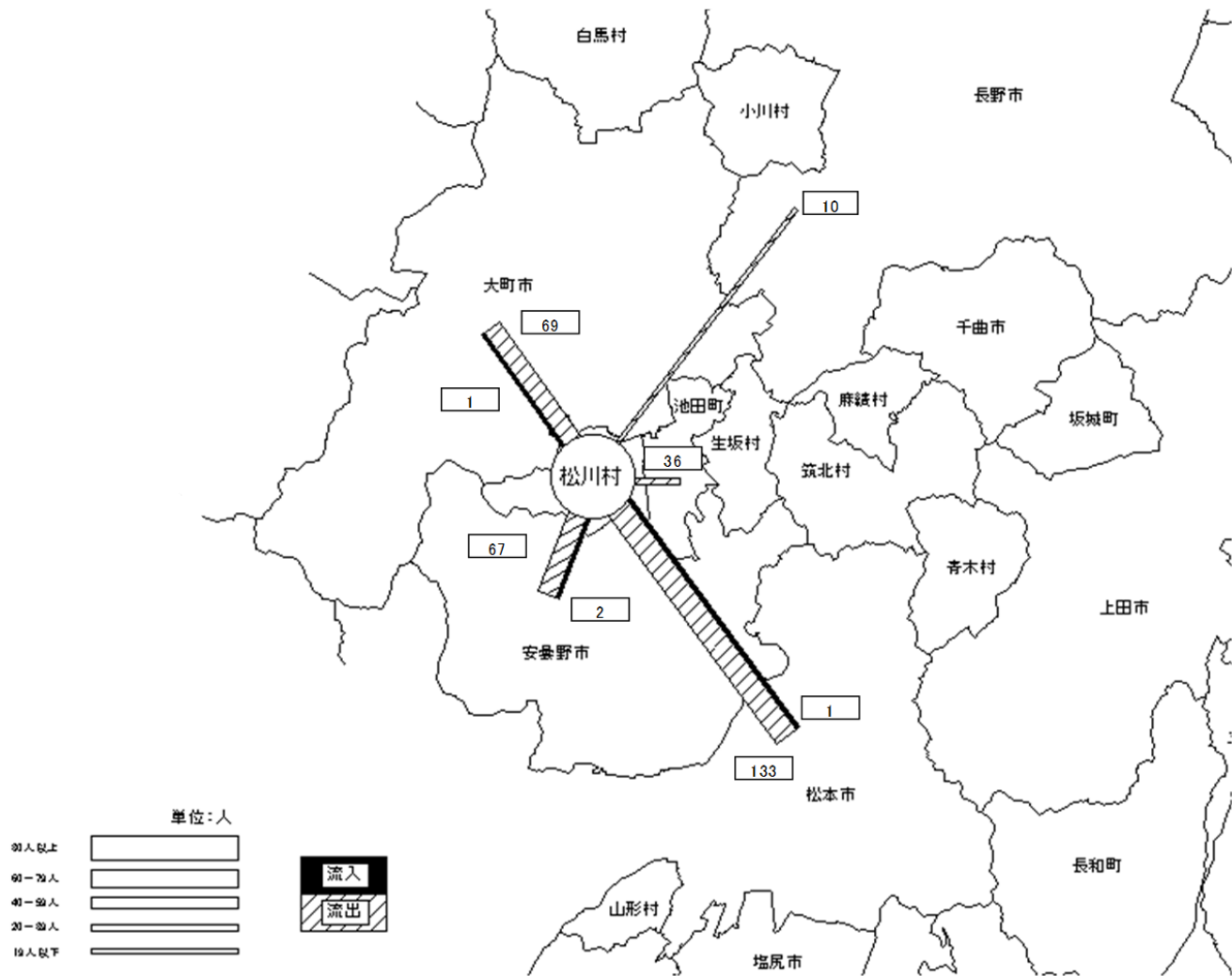
	流 出 先														
	流 出 率 第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位		
	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率	市町村名	流出者数	流出率
		人	%		人	%		人	%		人	%		人	%
平成 7年	松本市	134	27.2	大町市	109	22.1	豊科町	55	11.2	穂高町	41	8.3	明科町	8	1.6
平成 12年	松本市	119	29.0	大町市	79	19.2	豊科町	58	14.1	穂高町	37	9.0	池田町	25	6.1
平成 17年	松本市	141	32.0	安曇野市	85	19.3	大町市	76	17.3	池田町	37	8.4	白馬村	7	1.6
平成 22年	松本市	149	31.4	安曇野市	90	18.9	大町市	79	16.6	池田町	58	12.2	白馬村	8	1.7
平成 27年	松本市	133	29.2	大町市	69	15.2	安曇野市	67	14.7	池田町	36	7.9	長野市	10	2.2

	流 入 先														
	流 入 率 第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位		
	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率	市町村名	流入者数	流入率
		人	%		人	%		人	%		人	%		人	%
平成 7年	三郷村	1	1.1												
平成 12年	大町市	1	1.5												
平成 17年	松本市	1	1.4	大町市	1	1.4									
平成 22年	松本市	2	3.4	大町市	2	3.4	安曇野市	1	1.7						
平成 27年	安曇野市	2	2.3	大町市	1	1.2	松本市	1	1.2						

- 注 1. 常住地による通学者数とは、当該都市に常住する（夜間人口ベース）通学者数を言う。
 従業地による通学者数とは、当該都市に従業する（昼間人口ベース）通学者数を言う。
2. 流出率 = 流出通学者数 ÷ 常住地による通学者数 × 100
 流入率 = 流入通学者数 ÷ 従業地による通学者数 × 100
3. （従 / 常）通学者比率 = 従業地による通学者数 ÷ 常住地による通学者数 × 100

（国勢調査より）

通学者



図表 1-16 流出・流入状況図 (平成 27 年)